

人生儀礼（通過儀礼） 十三参り（じゅうさんまいり）

- ▶ 子どもに知恵と福德（ふくとく）を授けてもらうことを目的としている

江戸時代には盛んにおこなわれていた

数え年で13歳になった男女の通過儀礼として旧暦3月13日（現在4月13日）前後に、虚空菩薩像（こくうぼさつぞう）を安置しているお寺に親子でお参りをする行事

人生儀礼（通過儀礼） 十三参り（じゅうさんまいり）



▶ 虚空菩薩像（こくうぼさつぞう）

計り知れない知恵と福德をもたらす菩薩で、13番目に生まれた菩薩だったため、13歳になった子どもを連れて13日にお参りをするようになった

▶ 13歳という年齢は干支では二順目に当たる

男の子にとっては元服前の「半元服の祝い」という意味がある
女の子にとっては13歳は初めての厄年に当たるので、その厄落としの意味もあった